

| | |
|------|---------------|
| 研究区分 | 教員特別研究推進 教育推進 |
|------|---------------|

| | | | | | |
|-------|--------------------------------|-------|---------|----|--------|
| 研究テーマ | 成人看護学領域におけるがん看護学に関する教育プログラムの検討 | | | | |
| 研究組織 | 代表者 | 所属・職名 | 看護学部・教授 | 氏名 | 山田 紋子 |
| | | 所属・職名 | 看護学部・教授 | 氏名 | 林 みよ子 |
| | | 所属・職名 | 看護学部・講師 | 氏名 | 前野 真由美 |
| | | 所属・職名 | 看護学部・助教 | 氏名 | 鈴木 郁美 |
| | | 所属・職名 | 看護学部・助教 | 氏名 | 中岡 正昭 |
| | | 所属・職名 | 看護学部・助教 | 氏名 | 長谷部 美紀 |
| | | 所属・職名 | 看護学部・助教 | 氏名 | 植田 春美 |
| | 発表者 | 所属・職名 | 看護学部・教授 | 氏名 | 山田 紋子 |

| | |
|-----------------|--|
| 講演題目 | 成人看護学領域におけるがん看護学に関する教育プログラムの検討 |
| 研究の目的、成果及び今後の展望 | <p>【背景・研究目的】 近年、がんは診断技術・治療法の進歩による生存率や治療率の向上に伴い、不治の病いではなく慢性疾患として位置づけられ、がんを抱えながら生活する人々が増加し、そうしたがんサバイバーに対する看護支援が重要になってきている。第4期がん対策推進基本計画(厚生労働省, 2022)においても、多岐にわたり看護職が主体的に関わる事項が挙げられている。これらを踏まえ看護基礎教育におけるがん看護学に関する教育では、それらを網羅する広範囲な基本的知識を教授する必要がある。</p> <p>本看護学部成人看護学領域では、がん看護学について科目「慢性看護学概論」において教授している。従来、その担当は非常勤講師としてがん看護専門看護師に依頼してきたが、コロナ禍に伴い乳がん看護を研究課題としている学部内教員が教授することとなり、その授業内容については専門看護師と同レベルの実践的内容でかつ学術的要素も十分に包含されるよう洗練が必要であると考えた。</p> <p>以上のことから、本研究の目的は、科目「慢性看護学概論」におけるがん看護およびがん看護学に関する教授内容、教授方法について検討することとする。</p> <p>【研究方法】 第1に、文献検討および他大学のシラバスの実態把握を行い、近年のがん看護学に関する教授内容および方法、教育効果についての最近の動向と知見を把握した。第2に、本科目の履修を終了した3年生5名にヒアリング調査を実施した。第3に、第1、第2の結果を基に研究者間で検討した。</p> <p>【結果・考察】 文献検討およびシラバスの実態把握の結果、がん看護学のカリキュラム上の位置づけは慢性看護学の授業の一部あるいは1単位の講義科目に大別された。教授内容は、主ながんの疫学・標準治療、三大治療を受ける患者の看護、各健康レベルにおける看護、症状マネージメントなどであった。ヒアリング調査では、肯定的評価としてがん看護の全般を学べた、実習でがん患者を受け持った際の基礎知識となったなどが挙げられた。一方で、否定的意見として、網羅的であるためより詳細な看護について知りたい、より時間を増やして内容を充実させてほしいなどが挙げられた。</p> <p>以上の結果を踏まえ、教授内容の大枠は現行通りでよいと結論づけた。一方で、今後はより具体的な看護実践の内容を追加すること、また時間的制約を踏まえ、学生の後学となる参考書や資料の提供をしていくこととした。</p> |